

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 市立札幌大通高等学校 (※正式名称を記載)
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注 1}
☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注 2} ☒ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他 (例: 小中高一貫)
※注 1 義務教育学校を含む ※注 2 中等教育学校を含む
所在地 〒 060 - 0002
北海道札幌市中央区北 2 条西 11 丁目
E-mail makiko.nobuta@sapporo-c.ed.jp
Website http://www.odori-h.sapporo-c.ed.jp/
幼児児童生徒数 男子 525 名 女子 561 名 合計 1086 名
幼児・児童・生徒の年齢 15 歳 ~ 58 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校では「多様な価値観を受容し、他者を認める寛容な心を持ち、豊かな人間関係を築ける生徒を育てる」を学校目標の一つとしている。ユネスコスクールの活動を推進する多文化交流会議では、本校生徒の「多様性」を強みにするべく、ESD の実践を通して、「異なる価値観を持った他者を受容できる生徒」「有為な社会人として自立していける生徒」育成を目標に活動している。

具体的には、ESD カレンダーや校内 ESD マークを作成し、各教科で共有し、各教科内で ESD を意識した授業を実施。ミツバチプロジェクトによる教科横断型学習、渡日帰国生徒支援や国際交流と遊語部の活動、総合学習を利用した全年次での ESD 学習、生徒会活動での取り組み等、様々な分野で活動している。更に、年度末の校内プレゼンテーション大会では、各分野についての学びを総括し、プレゼンテーションを行い、全校で学びを共有している。

① ESD カレンダー、校内 ESD マークの作成による校内における ESD の価値観や原則共有及び各教科でのカリキュラム作成と実施。

② 教科横断型学習。ミツバチプロジェクトを継続し、校内の連携だけではなく、

中央幼稚園や生涯学習のチエリア講座、外部の物販への参加など対外的にも様々な方々と連携し、理科、環境、商業経済、芸術、家庭等の多方面から学習。次年度は新たに札幌について新しい教科横断型学習を開始。

③渡日帰国生徒支援と遊語部の活動。国際交流活動を推進する多文化交流会議の活動。日本語や母語授業、国際交流事業で通訳、企画、運営を行うことでアイデンティティの保障としている。また、フェアトレード商品販売と売上のユニセフへの寄付など、ユニセフとの連携も継続。

④総合学習で実施した全年時での ESD 学習。

1 年次では参観日に「世界一大きな授業」を実施。ESD や SDGs について学んだ。その後、本校の様々な活動と ESD との結びつきについてのワーク。渡日帰国生徒が授業者となり世界を学ぶクイズ学習の計 3 回実施。2 年次では、札幌の歴史と水をテーマに、コカコーラの方を講師に資源の有効活用と企業責任について学んだ。3 年次では、水道局の方を講師に、水資源と防災について。4 年次では、避難所運営や防災グッズ、ハザードマップなどを学び、実際に本校周辺の防災マップを作成。災害時に地域貢献できる意識を醸成する狙いで行った。

⑤生徒会活動では、ペットボトルキャップを回収し、年 2 回 NPO を通じてワクチンに替え寄付している。

⑥プレゼンテーション大会では、上記の活動について実施者が展示や発表など様々な形式で発表することで、活動を反省評価し、共有している。



① 本校生徒作成の ESD マーク



② ミツバチプロジェクト（動物の生態での内検）



③ ユニセフ募金の CM 生出演（遊語部の渡日帰国生徒）



⑥ プレゼンテーション大会

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16.ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input checked="" type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 多様性を認める寛容さ)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 学校行事学校祭やプレゼンテーション大会、参観日、外部国際協力イベントへの出店など)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

世界一大きな授業、ACCU の方の紹介による幸せの村 ws, 各教科の教科書
外部講師持参の各種パンフレット（水道局、コカコーラ、防災関連パンフレット、ハザードマップ、JICA など）
その他開発教材など

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ESD カレンダーを年度初めに作成することにより、各教科で ESD を授業にどのように位置づけるのか、授業内容も含めて検討することになっている。教科横断型学習では、ミツバチプロジェクトを開始して数年経つが、各教科、部活動などが連携し、外部との連携、外部への発信、校内研修等を通して、情報共有を図っている。

また、多文化交流会議主導で、1 から 4 年次まで総合学習に ESD 授業が組み込まれ、系統立てて学習するカリキュラムが完成した。内容については、生徒及び職員の感想、評価を受けて次年度に向けて検討を加えている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ユネスコスクールに認定された翌年に多文化交流会議という組織を作り、ユネスコスクールの活動と校内での ESD の推進を担当している。

国際交流も担当する部署だが、英語科教員のみではなく複数の教科担当者が所属し、外部への研修にも積極的に参加している。

また、多文化交流会議と連動して、渡日帰国生徒を支援すべく国際クラス、日本語や母語の授業、遊語部という部活動、分掌では保健支援部内に渡日帰国生徒支援の係を置き、多面的に支援できる体制を取っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

内部では年に 2 回多文化交流会議としての活動評価を行い、検討を加えている。ESD 授業の際にも、生徒、職員へのアンケート等で常に反省、検討を行っている。また、年度ごとの学校全体での対生徒アンケート、外部評価の導入、プレゼンテーション大会での発表とそれへの評価など常に生の反応がわかる体制である。不登校経験者の多い学校であり、実体験に乏しい生徒がある一定層いることを前提に、体験型の学習が望ましく、社会に出て役立つ内容を常に企画し、実施していくことが課題である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

ESD を意識した授業が増え、総合学習や授業のなかでの働きかけもあり、ESD 作文コンクール(インドネシア派遣へ選出)や国際交流プログラムなどへの参加者が増えた。学校 HP や本校メディア局での情報発信、プレゼン大会での各発表、札幌子ども日本語クラブ研修会での発表、福井大学や金沢大学での教員、生徒の本校の ESD の取り組みの発表など、情報発信を積極的に行い、交流が進んだ。本校を会場にした札幌ラウンドテーブルも 3 回目が終わり、全国の教育者へ取り組みを共有できた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

JICA 北海道、札幌市水道局、北海道 NGO ネットワーク協議会、北海道ユニセフ協会、北海道大学、中央幼稚園、札幌子ども日本語クラブ、コココーラ、ハルニレプロジェクトなど
各種授業や教科横断型学習、様々な活動で連携を図っている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

毎年、英語科がアートマイルプロジェクトに参加し、世界各国の高校生と交流している。今後、北海道大学の先生を中心としたプロジェクトを推進する予定であり、そこから連携先を探っていきたい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

校内での ESD の価値観、原則の共有の進展。教科横断型カリキュラムによる生徒の積極的な授業への参加。コミュニティスクールとしての連携もあるが、地域の組織とゆるやかに連携し、生徒にとって有用な参加型学習を実施できた。

教員だけではなく、生徒の中にも ESD や SDGs などの語が普及し始め、卒業生や在校生の中で、フェアトレード商品販売などの活動を積極的に行い、行動しようとする態度が見られるようになった。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400 字程度）

- ・年度ごとの ESD カレンダー作成や校内 ESD マークの活用。各教科で共有し、各教科内で ESD を意識した授業を実施。
- ・教科横断型学習（ミツバチプロジェクトの他に、新たに札幌を主題とした学習を実施する。現在、英語、家庭、情報商業、地歴公民などの教科に加え、校外での体験学習であるキャリア探究との共同学習を計画、立案）
- ・渡日帰国生徒支援や国際交流と遊語部の活動（フェアトレード商品販売と売り上げの寄付、各種イベント参加、渡日帰国生徒の学習保障など）
- ・総合学習を利用した全年次での ESD 学習（防災教育については、札幌の自衛隊の協力をあおぎ、より体験的な学習を実施する計画）
- ・生徒会活動での取組（ペットボトルキャップ回収によるワクチン寄付）
- ・年度末の校内プレゼンテーション大会。各分野についての学びを総括し、プレゼンテーションを行い、学びを共有。
- ・その他、ESD 作文コンクールや ESD 関連のコンテスト等への応募
- ・ESD、ユネスコスクール研修への参加
- ・外部人材とのプロジェクト推進による ESD 授業教材の開発などを計画